



花だより

鳥だより

ポロト案内舎 2018年 12月 84号



初雪が遅かったのに、根雪はすぐにやって来ました。7日にまとまった雪が降り、そのままとけずに根雪になりました。冬眠前のクマは慌てたことでしょう。その後は、暖かい日もあり、比較的穏やかな師走になりました。



いつきに冬景色



例年は雪の少ない12月ですが、今年は7日に大雪になりました。突然の雪に、シカの群れが難儀そうに歩いています。昨日までたくさんあったササの葉が消えました。これからは雪をかき分け探さないと。

灰色だった景色が、一日で銀世界に大変身。この変化が北国に暮らす魅力でもあります。エバーグリーンもステキですが、劇的に変わる景色は感動します。とは言え、これから4月までの長い間、この銀世界が続きます。



待ってました その1



12月に入ると、ポロト沼は徐々に凍りはじめます。-10℃を下回る夜がやって来ると、一気に氷が広がります。しかし、昼間はまだ暖かく、じんわりと水面が広がっていきます。

そんな水と氷の攻防が繰り返されるさなか、ごく少数のサケが遡上してきます。それを待っているのが、ポロト沼を見捨てずにとどまっていたオオワシ。こちらも1羽か2羽とごく少数になっています。貴重なサケを見つけると、むんずと捕まえ、力強く岸に引き上げます。するとカラスが近づいて来ます。オジロワシも次々にやって来ます。誰にも渡すものかと、翼を広げ威嚇しながら肉に食らいつくオオワシ。太いくちばしで、サケの身をスパスパ切り裂き、ガツガツ平らげていきます。大きなサケがあっという間に、頭と背骨、尾だけになってしまいました。

ちゃっかり者のカラスは、オオワシのくちばしや爪が届かない距離を保ちながら、飛び散った卵や肉片を拾って食べています。オジロワシは体が大きいので、カラスの様な機敏さがなく、オオワシの食事をただ見ているだけです。待っていても無駄だと悟ったオジロワシからその場を離れていきます。

12月の後半になると、寒さが一段と厳しくなり、ポロト沼は厚い氷に覆われます。海とつながる部分に水面を残すのみとなりました。サケの遡上も終わったようです。食べ物がないとオオワシは寄り付きません。残った水面に集まるカモの群れに、オジロワシが襲いかかるだけとなりました。



待ってました その2



琵琶瀬湾に今年もコクガンの群れがやって来ました。まだ、30羽ほどの小さな群れでしたが、浅瀬でアマモを食べていました。コクガンは、10月に野付半島周辺に8,000羽ほどの大群が集結します。野付湾が凍り始めると、群れは分散し、琵琶瀬湾にもやって来るようになります。これから寒さが厳しくなるにつれ、琵琶瀬湾の群れは大きくなり、厳冬期の2月には500羽を数えるほどになります。そして、寒さが緩む3月中ころには姿を消し、また野付半島周辺に集まり、故郷の北極海沿岸までの長い旅に備えます。琵琶瀬湾はコクガンの越冬地なのです。北日本には、いくつか越冬地が知られていますが、琵琶瀬湾がもっとも北に位置する越冬地かもしれません。

コクガンはマガモより少し大きいくらいの小さなガンです。小さいながらも長い首と持ち上がったお尻が、ガン特有のシルエットをつくりだしています。そして、白と黒のツートンカラーのシックな装いに、首の白輪が真珠の首飾りを連想させる気品があります。

コクガンは警戒心が強く、人が近づくと、すぐに飛び立ってしまいます。しかし、じっと待っていれば、「クア、ケロ、クエロ」と、カエルのような声を出しながら、近づいてきます。危険がないとわかれば、岸边に上がってきます。岩の上でフノリを獲っている漁師さんのすぐそばで、コクガンがやはりフノリを食べている光景を目にすることもあります。人がコクガンに関心を示さないと、コクガンも緊張しないでいられるようです。



さすらってます



冬になると姿を見せるチョウゲンボウ。琵琶瀬展望台で見かけたり、霧多布岬で見つかけたりと、広々とした場所で暮らしています。

展望台も岬も海からの風が強く、雪を吹き飛ばしてしまい、むき出しの草原が広がっています。そこで、チョウゲンボウはネズミを探しています。羽ばたいたり、風を利用して空中の一点に器用に停止しながら、あるいは電線にとまった

たまま、ネズミが地面を走り回るのを待っています。同じ場所でネズミを狙うライバルは、キツネ、コミミズク、ケアシノスリ、ノスリ、ハイイロチュウヒなどたくさんいます。小さなチョウゲンボウが生きていくのは大変そうです。



がんばっています



ポロト案内舎の犬たちは、2頭そろって新年を迎えられそうです。シロは15歳、クロは1月3日で13歳になります。

シロは秋から寝たきりになりました。後ろ足が弱って、まったく立ち上がれません。食事は私の手から食べています。水は体を支えてあげれば、容器から飲むことができます。トイレは自分ではできませんので、おしめをしています。

寝返りができなくなったので、一日に何回か、向きを変えてあげます。昼間は良いのですが、夜は何回も吠えて呼びます。その都度、おしめを変えたり、寝返りを打たせたりと、介護をしています。不自由な体になっても、生きる意欲を失わないシロは、えらいと思います。